

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第11号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



湧き水と見ゆる雨水や山の春 (飛鳥田れい無公)・・・「雨水」(うすい)2月19日

雨水は寒い冬の時期には雪が降っていたところから、雪ではなく雨に変わり、降り積もった雪が解け始めて水に変わり、草木が芽を出し始めるなどの意味があります。また、農耕の準備を始める気候になってきたという目安にもされています。

雪解けが始まったことで地面が潤い、春一番も吹き、春の気配を感じ始めます。雨水の日は「雛人形を出す日」といわれることがあります。これは、雨水に雛人形を飾ると、その家の女の子は良縁に恵まれるという言い伝えがあるからです。雛祭り(桃の節句)の12日か13日前が雨水の日なので、雛人形を飾り始める目安としています。しかし、雨水と雛人形には直接の関係はありません。雨水の前の二十四節気である「立春」から飾ることもあります。それが早いと思うのであれば雨水の日から飾れば良いのです。一般には、雛祭りに近い大安の日から飾ることも多いので、雨水の日にとらわれずに臨機応変に行なって問題ないのです。春を目の前に剣道に厳しい季節であった冬がもうすぐ終わろうとしています。このような時期こそ剣道の稽古は基礎基本を大事に本来の剣道の楽しみ方で過ごすのも良いのかもしれないですね。



写真: 雛飾り



写真: つばき花言葉: 「謙遜」

『自己研鑽』……合同稽古会

長崎県剣道連盟強化委員長 片山倉則

(一財)長崎県剣道連盟主催の合同稽古会が令和元年度も年に4回、各地区に分かれて開催されました。今年度は平成31年4月6日に長崎地区(県立総合体育館)、令和元年5月25日に諫早地区(森山スポーツ交流館)令和元年8月31日に大村地区(大村市武道館)、令和元年9月7日に佐世保地区(県立武道館)でした。出席者は長崎地区30名、諫早地区49名、大村地区51名、佐世保地区50名。会員数の一番多い長崎地区が例年少なかったのは何故だったのでしょうか?不思議でなりません。県剣道連盟主催なのですから、自分自身の修業はもちろんのこと、県剣道連盟の活性化に繋がる訳ですから、多くの参加者を期待したいと思っています。

令和元年9月7日の佐世保地区の合同稽古会時には台風13号が東シナ海を北上中でした。私は佐世保に移動中、さすがに今回は上五島からの参加者はないだろうと思いながら運転をしてきました。ところが受付のところで上五島の峯利雄先生とバツリお会いして驚いてしまいました。「この嵐の中どうやってこられたのですか」とお尋ねすると「今日は欠航になると思って、昨日から来ているのですよ」と平然として答えられました。他に上原武光先生、内野寿郎先生も来られていました。例年、上五島から4・5名の先生方が参加されています。その意欲はどこから来るのだろうかと思いの下がる思いでいっぱいになりました。

佐世保の先生方は火・木・土と週3回も稽古をしているとお聞きました。それも日本剣道形を数本打ってから稽古に入られるというから、またまた驚いてしまいました。週1回長崎県の県警武道館で行われている国体強化練習会に参加するだけでも億劫になっている自分が恥ずかしくなっていました。

令和元年9月14日は九州稽古会がありました。長崎県からは佐藤・灰谷・山本・岩松・馬場先生も参加されていました。私は福岡県警の國友選手と長く稽古したのですが、攻めの強さに圧倒されました。とても勉強になりました。鹿児島県・宮崎県など九州各県から多くの剣士が集まっていました。特に沖縄と書かれた名札を見て世の中には凄い人達がいるものだ改めて感動しました。

剣道の高段者として、近くで稽古会があっても参加しない人もいれば、上五島や沖縄からでも修業に来る凄い人もいます。世の中いろいろな人がいて面白いと思いますが、私達は常に剣道を通して自己研鑽するのが大切だと思います。



道場からの便り「道場紹介」(2)・・・有明剣道振興会(島原市)

有明剣道振興会の前身は、昭和28年に、少年剣道クラブ(大三東村・湯江村合同。道場名は自彊館、早稲田要衛村長剣道六段、その後、長男の有信町長自宅倉庫を改装。通称、早稲田道場と言った)として発足しました。指導者は、教員・議員・商工会員・役場関係者・駐在所警察官・有志等様々で常時7～9人在籍していました(古くは、伊藤金得氏後の東京農工大教授。宇土正秋氏島原高校体育教諭、吉村建吉氏当時六段後に諫早農高へ等々)。昭和30年には、有明村少年剣道クラブ(大三東村と湯江村合併時)、昭和36年に、有明町少年剣道クラブ(村から町に変更時)となりました。そして、昭和42年には、「本会は、剣道の奨励振興、特に青少年の健全なる指導育成を図ることを目的とする」と述べた趣意書を町民に配布し、有明町剣道振興会(会の発起人として、当時の町長・教育長・町内4校小・中学校長)の名の下に、より一層の充実が図られました。

その後、有明剣道振興会(平成の大合併時)へと名称の変遷をたどってきました。昭和42年の郡民体育大会剣道競技一般の部には、その当時の町長・助役(後の町長)・収入役(後の町長)・他指導者2名のメンバーで出場したと記録に残っています。まさに町民こぞの機運の高まりとなっていました。大学選手権・全国教職員大会・国民体育大会・インターハイ・玉竜旗大会・全国ねりんピック等の優勝者や優勝メンバー、そして、全日本選手権出場者も輩出しています。小・中学生の会員数は、昭和48年には145名。その前後は、100名を超え、会員数の最盛期を迎えています。令和元年度(平成31年度)現在の会員数は、小学生28名、中学生6名です。そこで、どうにか当会に携わってきた先人のご苦勞を何かの形にしたい、そして、後輩達には今後の励みになればと思い、会の歴史「創部60周年 有明剣道記録史」を6年前に作成いたしました。現在、本年度で66年目を迎えています。有明町青少年育成協議会(合併前までは会長は町長)の全面的なバックアップにより始まった有明少年剣道大会(この大会を寒稽古納め会として位置づけ、現在、島原半島内の小・中学生を招待)は、来年の1月大会で第49回目を迎えます。暑中稽古・暑中稽古納め会も毎年8月下旬に行っています。これは、55年以上となります(筆者が小学4年生の時参加の記憶あり。それからも継続中)。全国中体連ではベスト8の成績も残しています。令和元年7月は、全国道場連盟大会においては、小学生団体全国ベスト16でした。先人の想い掲げ、「剣道で青少年健全育成を」「教育は継続なり」の気持ちをもっている最中です。

◇稽古場所: 有明体育館

◇指導者: 平井節朗(会長兼指導者)、田中崇統(有明中)、前田英幸、吉田東生、松本明弘、他剣道愛好者

◇稽古日時: 小学生 火・木(17:00～19:00) 水(18:00～19:00) 土(9:30～12:00)

◇稽古日時: 中学生 月・火・木・金(17:00～19:00) 土(9:00～12:00)

◇問い合わせ: 平井節朗 TEL090-4582-1190 mail: hiraise@nifty.com

※文責: 有明剣道振興会会長 平井節朗

写真: 有明剣道記念史



有明剣道振興会(島原市) 全体集合写真



有明体育館での稽古風景

報告(1)・第67回全日本剣道選手権大会 松崎賢士郎選手(島原高→筑波大真崎少年剣道会出身) 準優勝

標記大会が令和元年11月3日(日)、大阪市中心体育館にて開催されました。日本一を目指し、67名の各都道府県代表選手が熱戦を繰り広げました。長崎県出身の松崎賢士郎選手(島原高校→筑波大:3年 真崎少年剣道会出身)が茨城県代表として準優勝という素晴らしい成績を収められました。本県代表の田尻 航選手(県警)は1回戦で埼玉県代表の益子貴義選手にメンで勝利し、2回戦で北海道代表の安藤 翔選手に延長戦の末惜しくも敗れました。

長崎県出身の松崎賢士郎選手試合結果				
【決勝】	×松崎賢士郎(茨城)		—	コ 國友錬太郎(福岡)○
【準決勝】	○松崎賢士郎(茨城)	メ	—	竹下洋平(大分)×
【準々決勝】	○松崎賢士郎(茨城)	メメ	—	メ 竹ノ内祐也(東京)×
【3回戦】	○松崎賢士郎(茨城)	メ	—	山田凌平(北海道)×
【2回戦】	○松崎賢士郎(茨城)	メメ	—	村上康彦(愛媛)×
【1回戦】	○松崎賢士郎(茨城)	メ	—	三雲悠佑(滋賀)×
長崎県代表の田尻 航選手(県警)試合結果				
【2回戦】	×田尻 航(長崎)		—	メ 安藤 翔(北海道)○
【1回戦】	○田尻 航(長崎)	メ	—	益子貴義(埼玉)×



準優勝 松崎賢士郎選手(筑波大)(真崎少年剣道指導者提供)➡

報告(2)・令第61回大阪居合道大会 三段の部 中村政樹選手 優勝

標記大会が令和2年年1月12日(日)エディオンアリーナ大阪において開催されました。本大会は全国から参加した、段外～七段までの1,200人を超える日本最大規模の大会です。種目は個人演武(段外～七段)優勝トーナメント試合(初段～六段)の優秀者による試合で試合内容は段外・初段は自由技5本、二段～七段は自由技3本と指定技2本で、長崎県から五段の部(124名)に畑中健佑選手、三段の部(187名)に中村政樹選手が出場し見事に三段の部で中村政樹選手が優勝を果たしました。日本最大規模の本大会の居合道界に及ぼす功績の大きさを感じさせられました。来年も是非とも多くの方が参加できるように願いたいものです。



三段男子の部 優勝
中村 政樹 (修道塾・西彼)

五段男子の部 敢闘賞(ベスト8)
畑中健佑(道遊会・長崎市)

三段男子の部 決勝戦
指定業:全日本剣道連盟居合(受け流し)

【大阪居合道大会の感想】(中村政樹 修道塾・西彼)

今回で3回目の参加になります。この大会は居合道大会の中で最も大きな大会とも言われています。今年は全国から1200人の参加者がありました。平成から令和になって初めての大会でもあります。今回の試合に向けて自分なりに課題をもって臨みました。「着装」「正確に」「ぶれない中心」「残心をちゃんとやる」そして「気位」です。居合の練習でも注意されることの多い所ですが、実際やってみると大変難しいものです。残心なども確実にできないと全てがダメになるものです。試合が進むにつれて道衣の乱れを何度も整えながら試合に挑みました。多分、着装は誰よりもよかったと思います。そして、決勝戦の相手はバリバリの若手の選手で勢いがあるように見えました。しかし、人生経験はこちらが多いので負けない気持ちでやりきりました。試合後に「気位」は自分なりに出せたのか分かりませんが、親身になって指導してくださった先生方や仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。それに長崎の居合の講習会や伝達講習会で先生方が頑張って指導して来られたことの方性は間違いではないと感じました。居合の稽古を続けていても、どれだけ上達したか分からないことがあります。県外の試合に出て自分の立ち位置を確認するのもいいのではないのかと感じました。これから先、もっと若手が頑張れるような環境づくりや県外への試合へどんどん出て行ってもらいたいと思います。

報告(3)・・・第29回全国高校選抜大会長崎県予選 島原高校 男女優勝

標記大会が令和2年1月18日(土)、19日(日)諫早市森山スポーツ交流館で行われ、男子は島原高校が優勝(2年連続15回目、全国大会16回出場)、女子は島原高校が優勝(2年連続12回目、全国大会12回出場)、2位は海星高校(全国大会初出場)。男子優勝の島原高校と女子優勝の島原高校と2位の海星高校は全国大会(3月26日～28日・愛知県春日井市)に出場します。男子の島原は西陵との準決勝戦で副将又吉がメンを決めて1-1の本数差で接戦を制し、長崎南山との決勝戦では互いに譲らず、0-0で代表戦へ突入。最後は又吉がドウを決めて競り勝ちました。女子の島原は決勝リーグで佐世保北と海星をそれぞれ2-0、大村を3-0で下して3戦全勝。3試合とも副将峯松までに決着をつけました。海星は2勝1敗で初めての全国大会出場を決めました。男子決勝戦は昨年11月の県新人戦で敗れていた長崎南山に一矢報いました。大将戦まで0-0の代表戦までもつれ込み、島原は副将又吉、長崎南山は大将林田の対決となり、最後の勝負どころで林田がメンを打ってきたところを返してのドウを打ち込んで全国大会出場を決めました。女子は島原が今大会5試合すべて大将へ回る前に試合が決まりました。決勝リーグ3試合は昨季の全国選抜大会、茨木国体の準優勝に貢献した峯松、岩本を副将、大将に据え中堅までの3人は試合のたびに入れ替えるという戦い方で臨みましたが、結果を出せる層の厚さを発揮しました。中でも平山は昨年夏の靱帯手術後の復帰にも関わらず全勝でチームに貢献しました。女子2位の海星高校は創部13年目で嬉しい全国大会初出場となりました。長崎市内などの自宅から通う、中学時代には実績がない生徒が結束をしての第2代表権を掴みました。島原高校男女と共に日本一を目指して活躍して欲しいものです。



男子団体優勝 島原高校 16回出場



女子団体優勝 島原高校 12回出場



女子準優勝 海星高校 初出場

報告(4)・・・第42回長崎県下女子剣道大会 小学生団体の部 黒髪少年剣道 優勝

標記大会が令和2年1月25日(土)、諫早市中央体育館(内村記念体育館)において開催されました。女性だけの剣道大会ですが、県内各地から小学生団体(3人制)83チーム247名、個人戦中学生151名、高校生88名、一般女子18名、総勢504名の女流剣士が参加し、小学生団体の部では黒髪少年剣道育成会が優勝しました。

小学生 団体の部		
<参加> 83チーム 247名		
優勝	黒髪少年剣道育成会A	(佐世保市剣道協会)
第二位	諫早少年剣道会亀戸館A	(諫早市剣道協会)
第三位	生月剣友会	(平戸市剣道協会)
第三位	愛野少年剣道部	(雲仙市剣道協会)
中学生 個人の部		
<参加> 151名		
優勝	永井 萌	(真崎少年剣道会)
第二位	寺川 舞	(橘道場)
第三位	吉田 沙綺	(中部中学校)
第三位	伊藤 智尋	(清風館少年剣道クラブ)
高校生 個人の部		
<参加> 88名		
優勝	峯松 加奈	(島原高等学校)
第二位	川村 優衣	(佐世保北高等学校)
第三位	井上 心春	(島原高等学校)
第三位	平川 光智	(佐世保北高等学校)
一般女子 個人の部		
<参加> 18名		
優勝	井元 琴音	(松浦市剣道協会)
第二位	山崎 八重	(諫早市剣道協会)
第三位	橋本 亜矢	(佐世保市剣道協会)
第三位	大原 敦子	(佐世保市剣道協会)
<総参加者 504名>		



小学生優勝 黒髪少年



高校生の部入賞者：中学生の部優勝永井萌選手



一般女子の部入賞者



小学生決勝戦の様子

大会結果